

名古屋市野外教育センターのあり方検討
基礎調査業務委託

中間報告書

令和7年9月30日

(株)パブリック・マネジメント・コンサルティング

目 次

第 1 章 概要..... 1

1.業務の目的.....	1
2.履行期間.....	1
3.業務内容.....	1
4.中間報告の内容.....	2

第 2 章 宿泊日数・活動内容の検討..... 3

1.概要.....	3
2.期間・方法.....	3
3.対象.....	3
4.調査結果の抜粋.....	4

第 3 章 他施設での実施可能性調査..... 15

1.概要.....	15
2.方法.....	15
3.対象.....	15
4.現状.....	16
5.可能性のある代替施設.....	17
6.課題と代替施設の検討状況.....	17

第 4 章 他都市調査..... 19

1.概要.....	19
2.方法.....	19
3.対象.....	19
4.時期.....	19
5.調査項目.....	20
6.結果.....	20
7.結果の分析.....	21

添付資料一覧 36

1. 添付資料1 野外活動における活動場所について 36
2. 添付資料 2 現行施設一覧..... 36

第1章 概要

1. 業務の目的

野外教育センター(以下、「センター」という。)は、「稲武野外教育センター」、「中津川野外教育センター」、「野外学習センター」の3施設を指し、名古屋市の小学校、中学校及び高等学校の児童及び生徒の自然環境における学習と共同生活を通じて、心身の健全な発達に寄与することを目的とした施設である。

稲武野外教育センター及び中津川野外教育センターの建物は、築40年以上が経過し、老朽化が進んでいることや地理的な事情により今後の運営において課題が存在する。

このような状況を踏まえ、機能統合や施設規模の縮小、他施設での実施可能性の検討を含めた今後の名古屋市におけるセンターのあり方検討に必要な基礎的事項の調査を行う。

2. 履行期間

契約締結日から令和8年3月31日まで

3. 業務内容

(1) 宿泊日数・活動内容の検討

検討にあたっては、児童生徒及び保護者、学校へのアンケート調査を実施し、アンケート結果やセンターの現状、他都市調査などを踏まえ、名古屋市の野外教育が永続的に進められる活動内容と望ましい宿泊日数の提案を学校種ごとに行う。アンケート調査については、インターネットを活用し、結果の集計・分析を行う。

なお、提案にあたっては野外教育を全校同じ活動場所で実施する場合、学校ごとに活動場所が異なる場合が考えられるため、それぞれのメリット・デメリットを洗い出し、比較検討したものとする。

(2) 他施設での実施可能性調査

候補となる施設は、移動に要する時間を片道2時間以内とし、候補先ごとに施設の機能、利用中の活動内容、アクセス利便性(公共交通、道路状況等)、受入可能な学校種、学校数、児童生徒1人あたりの必要経費を調査し、センターと比較できるようにする。

(3) 他都市調査(施設の運営方法・整備手法含む)

政令指定都市及び愛知県内の中核市(豊橋市・岡崎市・一宮市・豊田市)の野外教育の現状(活動内容、宿泊日数、参加費など)や所管する野外教育施設(規模、機能、受入体制など)を調査し、名古屋市の野外教育活動と比較ができるようにする。

調査した野外教育施設のうち、直近10年を目安として施設の老朽化・地理的な事情により大規模修繕あるいは移転改築を行ったまたは検討中の自治体があれば、それに至った経緯、整備手法、施設の運営方法、整備中の野外教育の実施状況を調査する。

4. 中間報告の内容

本中間報告書では、9月30日までに完了した以下の業務内容について記載する。

業務内容

(1) 宿泊日数・活動内容の検討

児童生徒及び保護者、学校へのアンケート調査の実施と集計。

(2) 他施設での実施可能性調査

現行のセンターで実施している野外教育活動について、他施設での代替実施の可能性を調査。候補施設の選定にあたっては、移動時間を片道2時間以内とし、各施設の機能およびアクセス利便性を把握し、現行センターと比較・検討。

(3) 他都市調査

政令指定都市及び愛知県内の中核市(豊橋市・岡崎市・一宮市・豊田市)の野外教育の現状(活動内容、宿泊日数、参加費など)や所管する野外教育施設(規模、機能、受入体制など)を調査し、名古屋市の野外教育活動と比較。

第2章 宿泊日数・活動内容の検討

1.概要

センターを実際に利用した児童生徒、学校のニーズまた保護者の意見を把握し、今後のあり方検討を進めていくにあたっての参考とするため、児童生徒及び保護者、学校へのアンケート調査を実施した。

2.期間・方法

調査期間	令和7年7月1日（火）から 令和7年7月31日（木）まで
調査方法	インターネット調査

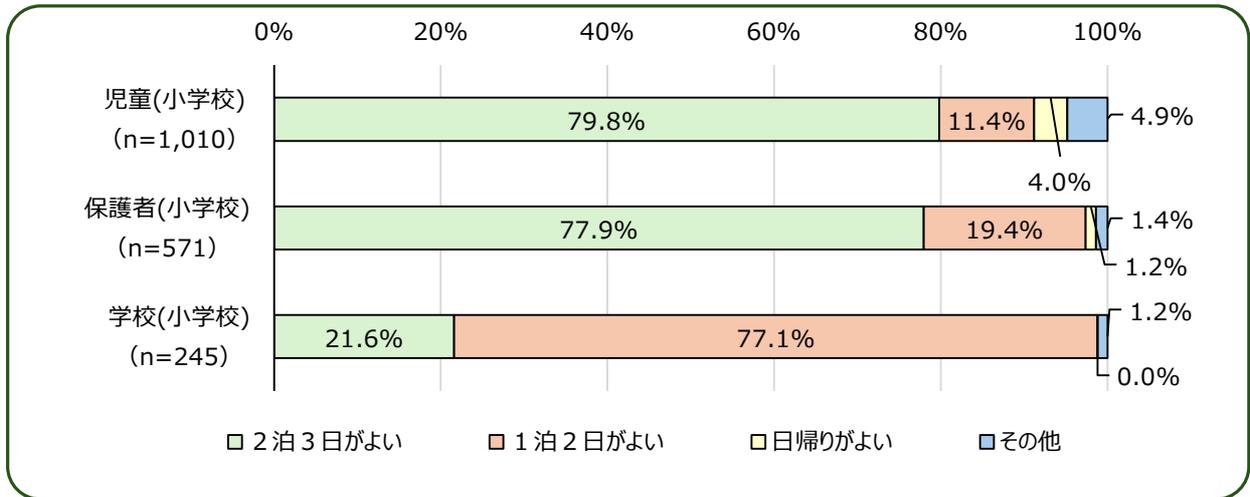
3.対象

調査対象	対象数 (人)(校)	回答数 (人)(校)	回収率 (%)
児童（小学校）	1,289	1,010	78.4%
生徒（中学校）	2,302	1,623	70.5%
生徒（高等学校）	1,183	715	60.4%
保護者（小学校）	1,289	571	44.3%
保護者（中学校）	2,302	796	34.6%
保護者（特別支援学校）	32	13	40.6%
学校（小学校）	260	245	94.2%
学校（中学校）	110	97	88.2%
学校（特別支援学校）	4	3	75.0%
学校（高等学校）	14	13	92.9%

- ◎ アンケート調査結果における各設問の母数n(Number of case の略)は、設問に対する有効回答者数を意味している。
- ◎ 調査結果の集計構成比(%)は小数点以下第2位を四捨五入し算出しているため、内訳の合計が必ずしも 100%とならない場合がある。
- ◎ 各設問の「その他の内容」(自由回答)として掲載した内容については、おおむね調査フォームに入力された原文を尊重し、記載している。
また、同じ内容についてはまとめた内容を掲載している設問もある。なお、回答の後の括弧書きの数値は回答数であり、回答数が 1 人の場合は括弧書きの記載はない。

4. 調査結果の抜粋

◎ 小学校向け：中津川野外学習の日数について



児童と保護者の約8割(児童:79.8%、保護者:77.9%)は「2泊3日がよい」と回答している一方で、学校は「1泊2日がよい」が最も多く(77.1%)、「2泊3日がよい」と回答した学校は 21.6%にとどまっている。なお、「日帰りがよい」はどの層でも少数で、「日帰りがよい」と回答した学校はなかった。

※「その他」の自由回答：小学生

期間	理由
3泊4日 (23)	たくさん遊びたいから (2)
	楽しかったから (6)
	普段経験できないことができるからです
	2泊3日だとやることが限られてしまい、充実感が薄れてしまうから
	時間が押してできなかった行事があったからもう少し時間が欲しいと思った
	そのほうが自然と触れ合えるし、川遊びなど天気によって左右されるものなどもあるから、時間が長いほうがいいと思ったから
	2泊だと物足りないと感じた。
	日にちが多いほど友達とかわることが増えるし日にちが多いほど楽しめるから
	もう少しゆっくりできるといいなとおもったから
3日ではやりきれないこともある。特別な体験は長いほうがいいと思うから。	
4泊5日 (4)	星空観察や室内ゲームがスケジュール上無理になっていたの、そういうことができるようになっていて欲しかった。ミニモトクロスやゴルフ、アスレチックが雨に打たれるとだめだからそのリカバリが利くようにして欲しいのと、時間が減茶苦茶押していてほとんどできなかったの改善してほしい

期間	理由
4泊5日(4)	スケジュールが多すぎてゆっくりする時間が少なかったから みんなで遊べる時間が長いから
5泊6日(1)	2泊3日でも疲れたが、4泊5日はもっと疲れる。けれど2泊3日でやや成長したと感ずるため、4泊5日だともっと成長できると思うから
1週間(6)	みんなで協力して笑いあって、楽しんで、自然と触れ合いながら過ごせるから 理由なし(5)
10泊11日	楽しかったし、時間が足りなかったから
3週間	やりのこしたことがあるし、もっと遊びたかった。
夏休み全部	理由なし
具体的な期間の希望なし	もっと長い時間中津川にいろいろなことをしたい 楽しくてもっといたかった 思い残すことがあったのでもう少し日数を増やしてほしい 凄く楽しかったのもっと泊まりたいです みんなと、友達とねたりしたいから
3泊2日	3泊4日は短すぎてあつとゆうまだったから
4泊3日	雨になつたりするから
行かない(2)	私が行つたとき、給食係だったんですけど、必要ないほど怒られて、とても悲しかったし、用意している間に、ほかの人たちは川遊びをしていたそう。人によって、怒られたり、遊びたい遊びができなくて、悲しい思いをしてほしくないから行かない。または、すべての人が、同じ遊びを遊べるようにして、人によって差がないのなら2泊3日でもいいと思います。
ない	

※「その他」の自由回答:保護者(小学校)

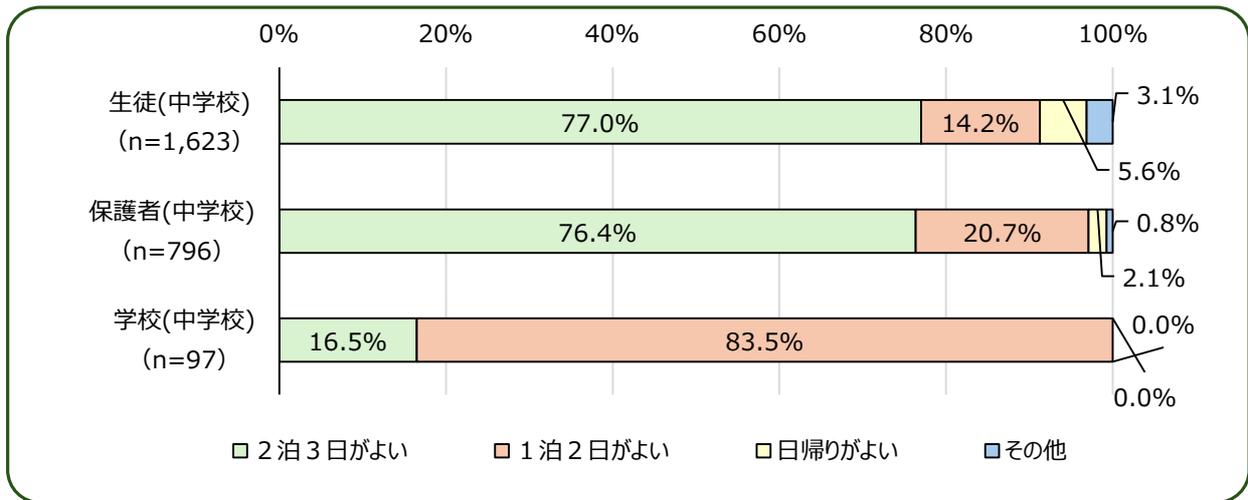
<p>子供が心疾患を患っているので個人的には1泊などが良いですが、全体として考えると2泊でも良いのかもしれません。(子供たちはその方が楽しいのかも?)</p>
<p>子どもにとっては、2泊3日の方が様々な体験ができて良いと思うが、先生方の負担を考えると1泊2日で良いかなと思います。</p>
<p>活動内容を重視だと2泊3日。こどもの体力面や精神面を重視だと1泊2日。今の生活では、ネット環境が多いため自然に触れ合い同級生と様々な学びを得てもらいたいです。</p>
<p>修学旅行より中津川が日程が長いのはどうなのかなあとも思う。飯盒炊飯することの意味や必要は感じない。</p>

<p>もっと長く離れたほうが子供の成長になると思いました。親元から離れた生活というのはしっかり身に付いて帰ってきました。もっと長く行ったらありがたみがわかると思います！！今でも娘は中津川楽しかったと話しますし、なによりもっとああしておけばと、生活のなかで自分が進んでやるべきだったかな？と考えております。</p>
<p>2泊3日と1泊2日どちらでも良い。</p>
<p>何日でも良い。</p>
<p>学校の意向で良い</p>

※「その他」の自由回答:学校(小学校)

<p>酷暑時の2泊3日は、児童の体調が心配。時期によって1泊か2泊か調整するのはどうか。公平性に課題はあるが、野外学習の意義と現状を考えるとあってもいいのではないか</p>
<p>2泊3日、1泊2日、それぞれに良さがあります。1泊2日だと自然を満喫するというより、行事をこなす感が否めない。2泊3日だとプログラムは慌ただしくならないが、季節や天候により子ども・職員の肉体的負担増になりかねない。都会育ちの名古屋の子どもたちに、どのような質・量の野外活動を提供すべきかは、個々の保護者の意見は参考にしつつも、市としての考えをまとめたい。</p>
<p>キャンプファイヤーをはじめ、魅力ある活動をできるだけ多く体験させるためには2泊3日が望ましいが、20年、30年前と比較すると気候の変化があり、夏季休業中の実施は難しさを感じる。(ただ、特別支援学級のことを考えると、学級担任等の負担を少なくできる夏季休業中に実施したい。) 酷暑期の実施を避けるとなれば1泊2日しか実施できないのではないか。何か良い策があれば、2泊3日が望ましい。</p>

◎ 中学校向け：稲武野外学習の日数について



生徒と保護者の約8割(生徒:77.0%、保護者:76.4%)は「2泊3日がい」と回答している一方で、学校は「1泊2日がい」が最も多く(83.5%)、「2泊3日がい」は 16.5%にとどまっている。なお、「日帰りがい」はどの層でも少数で、「日帰りがい」と回答した学校はなかった。

※「その他」の自由回答：中学生

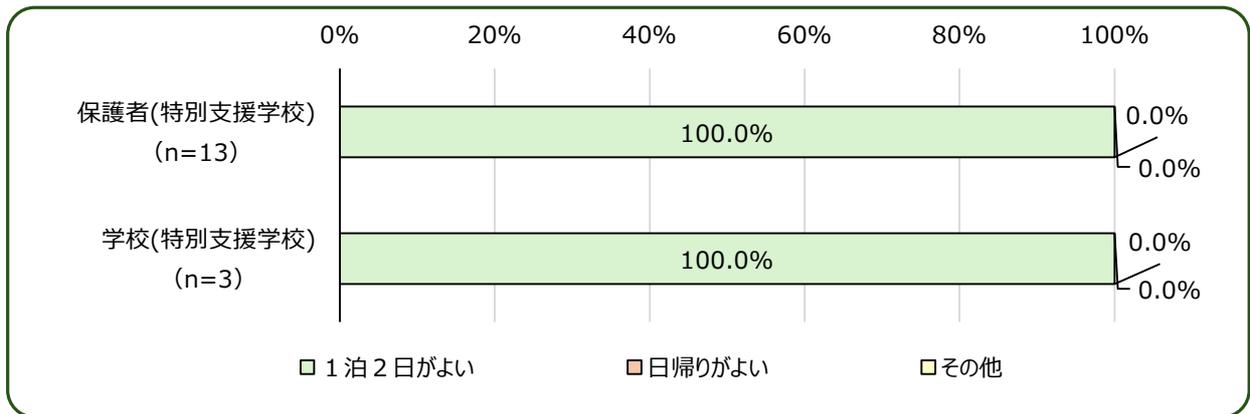
期間	理由
3泊4日 (21)	物足りなく感じたから (7)
	もっと色々なことを体験したいから (4)
	もうちょっといたかったから (3)
	もっと楽しみたかった (2)
	特別感を味わう。また日数が多いと仲が深まる
	もっと仲を深められると思ったから。
	天気が変わりやすいが長い日数にすれば、より晴れる時間も長くなるので、いろいろなことがやりやすかったから。
	理由なし (2)
4泊5日 (5)	2泊3日だと友達との親睦を深めるのが中途半端で終わってしまい普段喋ってる人とも、もっと遊びたいと思い、普段あまりしゃべっていない友達と親睦を深める機会が少なかったから
	たのしいから
	普段体験できないことを、いつもの生活から少し離れて伸び伸びと実習することで心身の発達と成長にもつながるし、その体験をきっかけに自分のやりたいこと、なりたい職業が見つかるかもしれないから。(小6のころ、私は実際にその体験から刺激を受け、なりたい職業を見つけました。)
	ほぼ一週間泊まることで、その状況下での生活に慣れてきて、稲武の成長した部分を日常生活で生かそうと思わなくてもスムーズに出てくると思うから
	すぐ終わってしまったから

期間	理由
5泊6日	もっと遊んだり、友達と協力したい
	理由なし
6泊7日(2)	野外学習という大事な経験を一週間を通して実感をするべきという考えに至ったため
	1日まるまる遊ぶ時間が少なかった
1週間(6)	いろいろなことが体験できる
	楽しかったから
	2泊3日だと少なかったから、もう少し長いほうが良いと思った(2)
	理由なし(2)
10泊15日	理由なし
10泊11日	短すぎる
二週間	自然と触れ合うことは大切なことだから
最低3週間	3年間のテスト週間の努力と2泊3日はつりあっていない。まず、中学3年間でテストは14回あります。私はたいてい2週間前くらいから平均1日2時間以上勉強をしていました。よって、それぞれのテストでの勉強時間は2×14で28時間。14回なので28×14で計392時間。よって私たちは392時間修学旅行に時間を費やすべきだと思います。(392÷24で約16日。)これはあくまで1日2時間計算なので「これ以上は必要」という最低値が16日ということです。よって最低3週間。2泊3日はふざけてる。(と私は思います。)
30泊31日	理由なし
10年	楽しいから
できるだけたくさん	楽しいから
もっとたくさん	理由なし
	2泊3日は一瞬だったので、もっと日にちが長いほうが良いと思います
	2泊3日以上が良い。とても楽しく、自然と触れ合える貴重な時間だし、友達との忘れられない思い出になるから。
ずっと	楽しい
何日でもいい。	長いと経験はつめるけど、飽きるし疲れる。短いとなんもできないし、楽しい要素が少ない
行ってないからわからない(2)	
臭いからいきたくない	

※「その他」の自由回答:保護者(中学校)

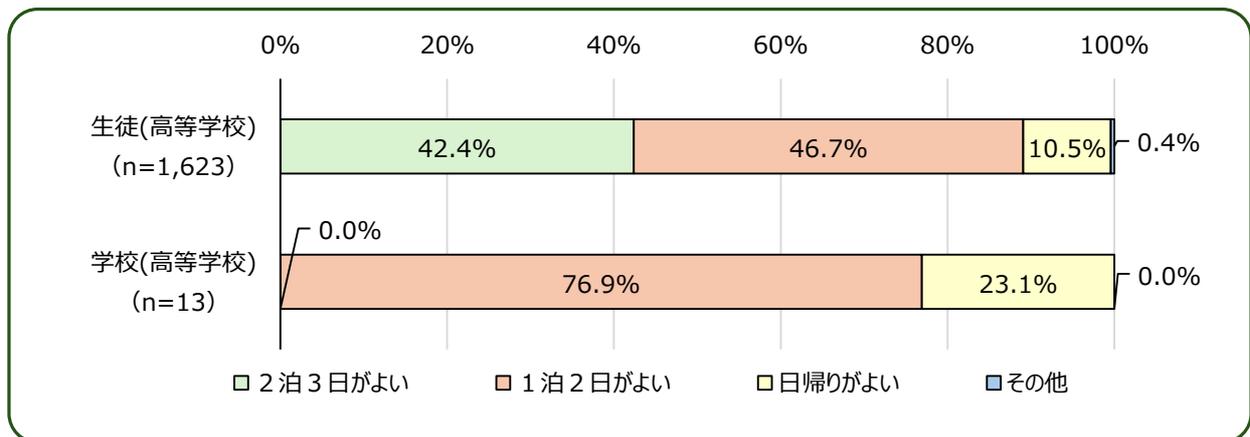
3泊4日 部屋で過ごす時間を1日取って欲しい。クラスの子達ともっと過ごしたい。
子供がクラスに馴染めてそうなら2泊、そうでないなら1泊がいいです
無くなっていい。熊が怖い。
最近熊の出現が相次いでおり、稲武も例外ではありません。野外学習の意義は理解していますが、多分大丈夫だろうという考えでは、いざ熊と鉢合わせた時に、的確な行動を取れるとは思えません。鈴を持たされただけでは命を守れないと思います。熊出没時の不安が解消されない限りは、野外学習は中止でもやむを得ないと思います。
野外学習の内容により、無理なく楽しく過ごすことができる日程を組んでもらえればいいと思います。
何泊が良いとは特にないです

◎ 特別支援学校向け:中津川野外学習の日数について



保護者(13人)と学校(3校)の全てが「1泊2日がいい」と回答している。

◎ 高等学校向け:野外学習(オリエンテーション合宿)の日数について

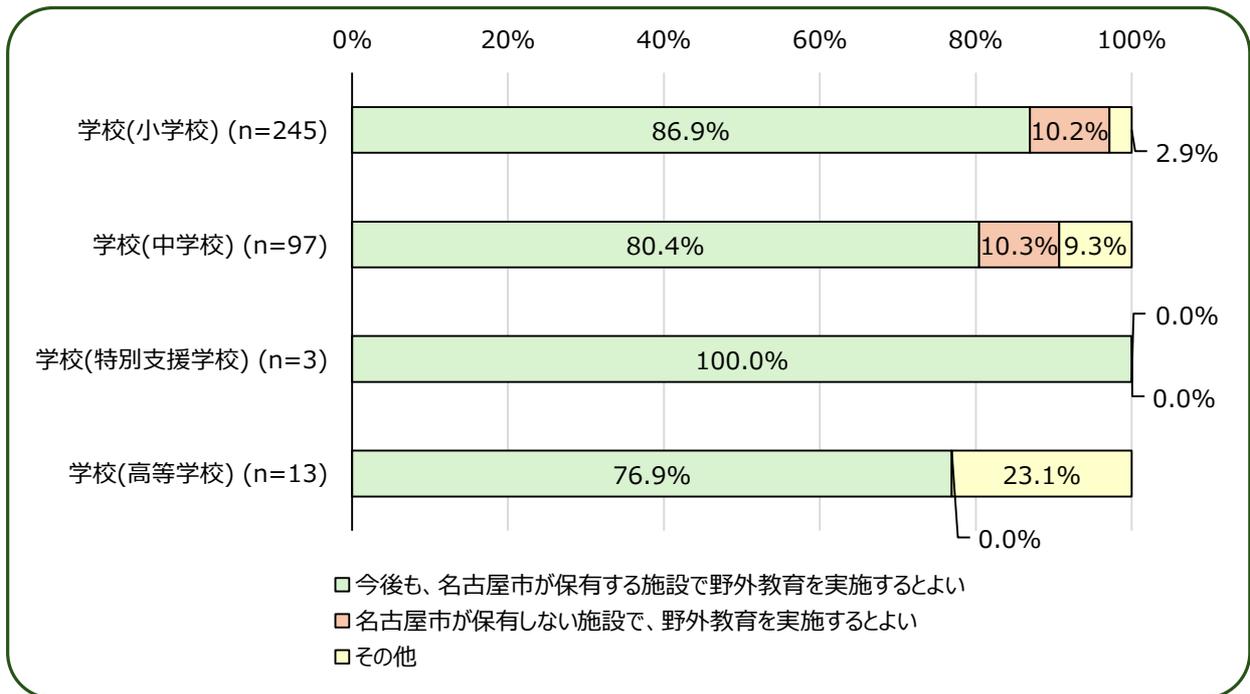


生徒の 46.7%は「1泊2日がいい」と回答しており、「2泊3日がいい」は 42.4%である。一方、学校の 76.9%は「1泊2日がいい」と回答している。なお、生徒の約1割(10.5%)が「日帰りがいい」と回答しているが、学校は 23.1%で生徒よりも「日帰りがいい」と回答した割合が高くなっている。

※「その他」の自由回答:高校生

もっと多くの日行きたい
いきたくない。
行きたくない。虫が多くて生活するのにストレス。ご飯が3食揚げ物で体調を崩す。レクリエーションとしてやる活動に意義を感じない。

◎ 名古屋市が保有する施設で野外教育を実施していることについて



全ての学校種で、大多数の学校が「今後も名古屋市が保有する施設で野外教育を実施するとよい」と回答している。特に、小学校(86.9%)と特別支援学校(100.0%)でその割合が高い。「名古屋市が保有しない施設で、実施するとよい」と回答したのは、どの学校種でも1割程度、もしくは1割未満にとどまっている。

※「その他」の自由回答:学校(小学校)

名古屋市の保有施設であることは費用面で負担が少なくてよいと思う。昨今の岐阜県中津川市の気候は涼しい夏の山の生活とは違い、熱中症に配慮しなくてはならない厳しい気候地になってきた。風通しが良く今より涼しく過ごせる施設になるとよい。
「今後も名古屋市が保有する施設で野外教育を実施するとよい」が良いですが、名古屋市内の緑地公園（小幡緑地、庄内緑地、大高緑地、戸田川緑地など）で、野外教育が実施できるように整備できたらさらに良いと考えます。
学校の選択性
基本的に「今後も、名古屋市が保有する施設で野外教育を実施するとよい」であるが、不可能であれば野外教育の必要はない。
どちらもあり…なのかなと、迷います。

「名古屋市が保有しない施設で、野外教育を実施するとよい」の選択肢は現状困難です。名古屋市立学校が安定的に自然体験・宿泊体験できる野外活動施設はありません。民間施設だと料金が高くなります。また、確保のためどの学校も予約や交渉を旅行代理店に委託することになり混乱の体を極めます。故に市として施設の確保は責務です。しかし、2泊3日ではなく1泊2日にする場合は、市の施設として確保すると費用対効果が得られない。

名古屋市が保有する施設で野外教育を実施することは賛成であるが、施設の全面建て替えを行うべきである。40年前と気温や気象が大きく変わっているし、子どもたちや保護者の考え方も変化している。部屋のエアコンはようやくついたが、他にもお風呂の洗い場に仕切りがなかったり、お茶を冷やしたりするものも改善していくべきである。

※「その他」の自由回答:学校(中学校)

「今後も、名古屋市が保有する施設で野外教育を実施するとよい」か「名古屋市が保有しない施設で、野外教育を実施するとよい」かを各校で選択できると良い。

野外教育が今の時代にマッチしているのか見直し、実施しないあるいは、教員が引率しない形で実施するとよいと考えます。

名古屋市が保有する施設で実施するのがよいと思うが、毛布や布団等の衛生面に不安を感じる。また、夏季に実施する場合に、エアコンが必要になってくると考える。

実施するかしないかも各学校の裁量とする

生徒にとって野外学習の精神的、肉体的な負担は大きい。施設の改修、建て替え費用を考えると、実施するか見直すことも考えるべき。

学習指導要領にない内容だと思うので、実施の必要性はないのではないか。名古屋市として推進したいということであれば「今後も、名古屋市が保有する施設で野外教育を実施するとよい」。

遠足として、1, 2年生のいずれかで日帰りで行う程度でよい。学校ごとの判断でよい

名古屋市が野外教育の全面サポートで施設を使用できることは職員の負担軽減されてとてもありがたいです。一方で、今後の施設のコンセプトや実施できる内容については実情に適したものを検討いただけると幸いです。また、民間委託等できる内容があっても良いかと思えます。

名古屋市が保有する施設を、今日の気象状況や児童生徒の生活環境に適応させ（水洗トイレやエアコンの設置等）改築し、野外教育を実施する

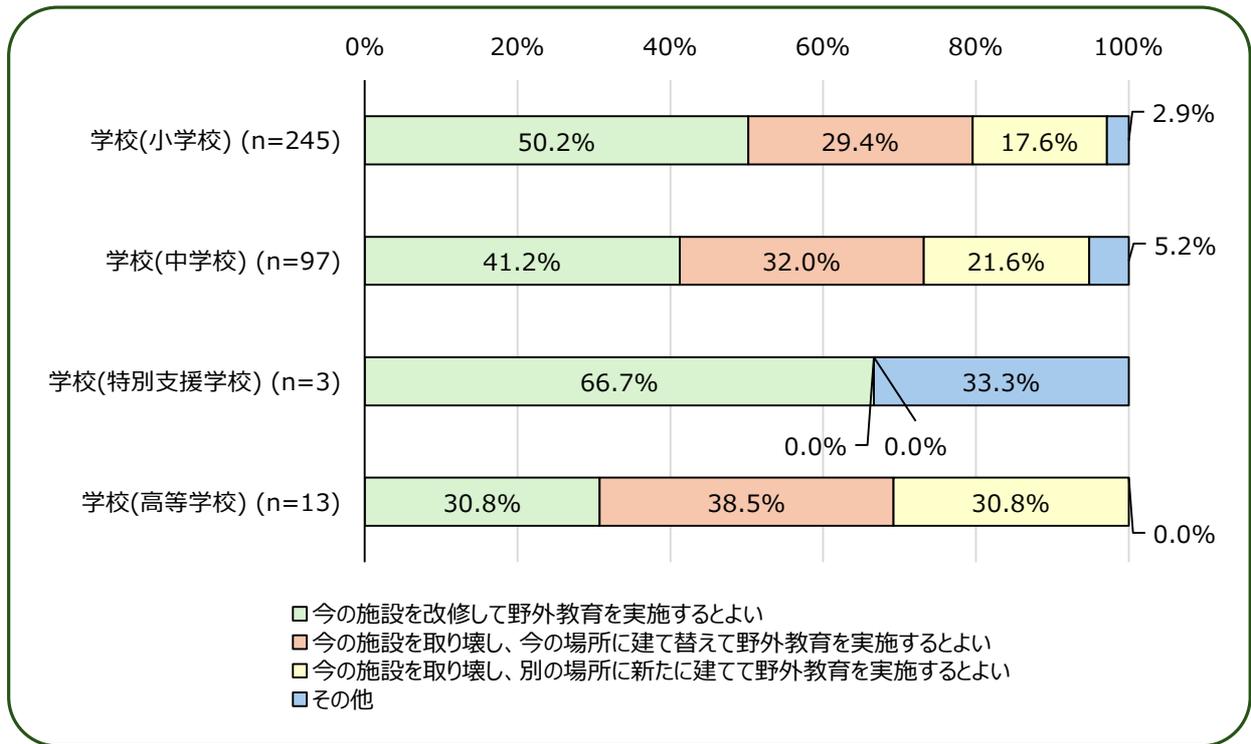
※「その他」の自由回答:学校(高等学校)

費用の面では抑えられるが、その分の制約も大きい。オリエンテーションが目的なら、宿泊を伴わなくても日帰りで十分だと思う。

どちらでも良いが、洋式トイレ化と給湯能力の向上と害虫対策は必須であると考えます。

現施設が安全面での改修ができるのであれば「今後も、名古屋市が保有する施設で野外教育を実施するとよい」。

◎ 名古屋市が保有する施設での実施を前提とした場合、施設の改修や改築について



小学校の 50.2%、中学校の 41.2%、特別支援学校の 66.7%が「今の施設を改修して野外教育を実施するとよい」と回答している。また、高等学校については、「今の施設を改修して野外教育を実施するとよい」(30.8%)、「今の施設を取り壊し、今の場所に建て替えて野外教育を実施するとよい」(38.5%)、「今の施設を取り壊し、別の場所に新たに建てて野外教育を実施するとよい」(30.8%)と回答が分散している。

※「その他」の自由回答:学校(小学校)

第1本館は改修 第2本館は建て替え
中津川や稲武以外の、例えば、収容人数が対応できれば、青少年宿泊センターや県的美浜自然の家などを利用しながら、並行して、今の中津川や稲武の改修や改築の計画を立てたり、進めたりする。
基本的に「今の施設を改修して野外教育を実施するとよい」が答えであり、改修で維持できるならそれでよいが、熱中症対策（7月～8月には活動が不可能になる可能性もある、真夏に冷たいものが与えられない＝冷蔵、冷凍）、多様な子供への対応にかかる人的配置などを考慮すると、これまで行ってきたやりかたのまま、改修を行うだけで、野外教育を維持していくことが本当に可能なのかは心配である。
引率教員の負担が軽減される（もしくは、現状より増えない）方法かつ、児童・生徒が安心・安全に利用できる施設となる実施方法にしていきたい。
「今の施設を取り壊し、別の場所に新たに建てて野外教育を実施するとよい」に近いが、第二本館は、老朽化のため改修ではなく、建て替えが望ましい。現在の施設近くに新しい第二本館を建てることできないでしょうか？ そうすれば、活動を制限せずに、移行ができるのではないのでしょうか。

中津川市は名古屋市から程よい距離であると思うので、中津川市から別の場所に移転する必要はないと考える。しかし、中津川野外教育センター第2本館は、最終日、どんな天候でも大きな荷物を持って山道を歩き、急な坂を上らなければならないので、第1本館の近くに移転してほしい。

今の施設を改修でいいと思いますが、食物アレルギー等のアレルギー対応、ケガや発熱、熱中症等への対応についても施設だけでなく人的対応がなければ、ますますリスクが高まってしまうため、施設同様に早急な対応策をお願いしたいです。

※「その他」の自由回答:学校(高等学校)は、自由回答なし

※「その他」の自由回答:学校(特別支援学校)

今の施設を取り壊し、今の場所に、バリアフリーに配慮した施設として建て替えて、小学校と、中・特別支援学校高等部が野外教育を実施できるようにするとよい。もしくは、特別支援学校高等部は宿泊学習を実施しないことを容認し、これまで通り小中学校向けに、今の施設を改修して実施するとよい。

第3章 他施設での実施可能性調査

1. 概要

本調査は、現行のセンターで実施している野外教育活動について、他施設での代替実施の可能性を検討することを目的とする。

候補施設の選定にあたっては、児童生徒の移動負担等を考慮し、移動時間を片道 2 時間以内とする条件を設定し、各施設における教育活動に必要な機能の有無や、アクセスの利便性等を把握し、現行センターとの比較・検討を行った。

2. 方法

調査は 2025 年 7 月時点において、インターネット上で各自治体および施設の公式ホームページや関連資料を収集・確認する方法により実施。

施設の基本情報、機能、活動内容、アクセス手段等を整理し、比較検討のための基礎資料とした。

3. 対象

本調査では、以下の条件を満たす施設を調査対象とした。

- 名古屋市から車で片道 2 時間以内
- R6 年度時点で名古屋市の小中学校における児童生徒数が最少(8 人)の学年を収容可能
- 宿泊施設(宿泊棟)を有している施設(テント泊のみの施設は除外)
- 学校・教育団体を受入可能な体制を持つ施設

これらはすべて、学校等の団体利用に対応可能な規模を有し、学校・教育団体を受入可能な体制を持つ施設であることを前提とした。

なお、調査対象とした施設は、名古屋市立小中学校における令和 6 年度時点で最も児童生徒数が少ない学年の在籍児童・生徒数を上回るかそれに準ずる宿泊定員を有するものに限定した。

これは、名古屋市における最小規模の学年が一度に野外教育活動を実施する場合にも受け入れ可能な規模を確保することを目的とする。

4. 現状

名古屋市が現在保有する「稲武野外教育センター」「中津川野外教育センター」「野外学習センター」の野外教育施設は、いずれも他の野外教育施設と比較して大規模かつ多機能である。そのため、これらに代替し得る施設は限られている。

図表3-1: 現行施設一覧

施設名		中津川野外教育センター				稲武野外教育センター				野外学習センター							
設置時期		1970				1967-1981				1990							
住所		岐阜県中津川市				豊田市稲武町				豊田市稲富永町							
移動時間		1h15m				1h23m				1h18m							
棟など		全体	第一本館	第二本館	備考	全体	第一・三本館	第二本館	備考	全体	宿泊棟	管理棟	食堂棟	キャンプ場	備考		
宿泊	宿泊室	定員 (人)	723	393	330		631	421	210		338	338	-	-	-		
		室数 (室)	51	27	24		34	22	12		26	26	-	-	-	-	生徒用と教員用の部屋の区別がない可能性あり
	教官室	面積 (㎡)	1351.35	732.6	618.75		1514.44	1047.88	466.56		770.55	770.55	-	-	-	-	
		室数 (室)	18	9	9		7	5	2		2	-	2	-	-	-	教員用の部屋を指すのかは不明 ユニットバス付き
		定員 (人)	63	33	30	(宿泊室定員に含まれている)	31	21	10	(宿泊室定員に含まれている)	8	-	8	-	-	-	
	面積 (㎡)	207.9	108.9	99	(宿泊室面積に含まれている)	238.74	160.98	77.76	(宿泊室面積に含まれている)	33	-	33	-	-	-		
研修	多目的室	室数 (室)	2	1	1	「集会議室」といふ扱い	2	1	1		5	-	5	-	-	-	
		面積 (㎡)	942.57	310.77	631.8		340	200	140		330	-	330	-	-	-	「研修室」といふ扱い
衛生	洗面所	数 (箇所)	12	6	6		8	6	2		7	2	4	-	-	-	
		トイレ	数 (箇所)	21	11	10		19	15	4		30	6	-	6	-	-
	浴室	室数 (室)	7	4	3		4	2	2		2	-	-	2	-	-	
		面積 (㎡)	-	-	-		187.2	90	97.2	図面より概算	保留	-	-	保留	-	-	食堂棟の図面が不足
	シャワー室	室数 (室)	-	-	-		-	-	-		2	-	-	2	-	-	
	面積 (㎡)	-	-	-		-	-	-		保留	-	-	保留	-	-	食堂棟の図面が不足	
食事	食堂	室数 (室)	2	1	1		2	1	1		1	-	-	1	-	-	
		定員 (人)	620	320	300		611	399	212		480	-	-	480	-	-	
		面積 (㎡)	709.718	397.318	312.4		707.4	561.6	145.8		保留	-	-	保留	-	-	食堂棟の図面が不足
	調理室	室数 (室)	1	1	1		2	1	1		1	-	-	1	-	-	
		面積 (㎡)	366.903	190.503	176.4		273.165	203.325	69.84		-	-	-	-	-	-	
保健	保健室	室数 (室)	2	1	1		2	1	1		1	-	1	-	-	-	
		面積 (㎡)	49.3	24.3	25	図面より概算	41.4	22.5	18.9		16.8	-	16.8	-	-	-	
屋外機能	キャンプファイヤー場	数 (箇所)	6	3	3		2	1	1		1	-	-	-	-	1	
		屋外トイレ	数 (棟)	5	3	2		4	-	-		4	-	-	-	-	4
炊事機能	かまど	数 (基)	80	32	48		77	51	26		64	-	-	-	-	64	
		野外炊事場	数 (箇所)	2	1	1		2	1	1		2	-	-	-	-	2
	雨天炊事場	数 (棟)	4	2	2		5	3	2		2	-	-	-	-	2	
		かまど (基)	82	30	52		40	24	16		33	-	-	-	-	33	
	流し (基)	20	8	12		6	4	2		2	-	-	-	-	2		
	蛇口 (個)	192	72	120		28	16	12		40	-	-	-	-	40		
参加費	2泊3日	合計 (円)	8,904	-	-	9,959	-	-		16,000	-	-	-	-			
備考																	

(添付資料 2 参照)

5. 可能性のある代替施設

本章では、現行施設に代替する可能性のある施設を抽出し、それぞれの施設についての緒元を整理・比較することで、代替施設の可能性を明らかにすることを目的とする。

分類の整理と選定条件

本調査においては、代替実施の可能性のある施設について、以下の 2 区分に分類し、調査・整理を行った。

【分類】

- 公共施設
 - 他自治体の「自然の家」や青少年教育施設など
 - 国立・都道府県・市町村の所管施設
- 民間施設
 - 大規模なキャンプ場
 - 企業や団体が運営する宿泊型自然体験施設など

【選定条件】

- 名古屋市から車で片道 2 時間以内
- R6 年度時点で名古屋市の小中学校における児童生徒数が最少(8 人)の学年を収容可能
- 宿泊施設(宿泊棟)を有している施設(テント泊のみの施設は除外)
- 学校・教育団体を受入可能な体制を持つ施設

上記の選定条件に基づき、愛知県・岐阜県・福井県・滋賀県・三重県・静岡県の 6 県から、公共施設および民間施設 37 施設を候補として抽出した(37 施設の概要は、P18に掲載)。

6. 課題と代替施設の検討状況

現行施設の収容人数や利用状況、活動内容等から、それぞれの代替施設候補の収容人数や利用状況、活動内容の制限、利用料金、施設の老朽化状況等を調査中であるが、いずれの施設も、オンシーズンは利用率が高いことが見込まれるため、名古屋市が希望する期間に利用できる可能性は低いと思われる。

図表3-2:代替候補として抽出した施設一覧

ID	施設名	住所	名古屋市からの 車での所要時間	定員
1	愛知県旭高原少年自然の家	愛知県豊田市	1h20m	500
2	愛知県美浜少年自然の家	愛知県知多郡	57m	480
3	滋賀県希望ヶ丘文化公園	滋賀県蒲生郡	1h34m	360
4	鷲ヶ岳高原ホテルレインボー	岐阜県郡上市	1h41m	358
5	岐阜市少年自然の家	岐阜県岐阜市	1h4m	288
6	春日井市少年自然の家	愛知県春日井市	49m	256
7	愛知県野外教育センター	愛知県岡崎市	1h15m	252
8	浜松市かわな野外活動センター	静岡県浜松市	1h35m	250
9	三重県立鈴鹿青少年センター	三重県鈴鹿市	1h18m	243
10	各務原市少年自然の家	岐阜県各務原市	51m	238
11	岡崎市少年自然の家	愛知県岡崎市	1h3m	208
12	豊田市総合野外センター	愛知県豊田市	57m	204
13	休暇村茶臼山高原	愛知県北設楽郡	1h56m	202
14	阿南少年自然の家	長野県下伊那郡	2h	200
15	東栄グリーンハウス	愛知県北設楽郡	1h46m	200
16	つく高原グリーンパーク	愛知県北設楽郡	1h49m	195
17	四日市市少年自然の家	三重県四日市市	56m	195
18	愛知県青年の家	愛知県岡崎市	55m	180
19	彦根市荒神山自然の家	滋賀県彦根市	1h26m	166
20	関市立中池自然の家	岐阜県関市	1h	160
21	Villa MontSant	岐阜県郡上市高鷲町	1h48m	158
22	愛知県民の森	愛知県新城市	1h31m	150
23	名古屋市宿泊青年の家	愛知県名古屋市	25m	120
24	鈴鹿峠自然の家	三重県亀山市	1h1m	109
25	池田町青少年研修施設	岐阜県揖斐郡	1h3m	100
26	天竜自然体験センター 湖畔の家	静岡県浜松市	1h50m	100
27	豊橋市少年自然の家	愛知県豊橋市	1h40m	100
28	敦賀市少年自然の家	福井県敦賀市	1h46m	80
29	RECOMP養老	岐阜県養老町	58m	78
30	大垣市青年の家	岐阜県大垣市	52m	60
31	亀山市青少年研修センター	三重県亀山市	1h	30
32	観音山少年自然の家	静岡県浜松市	1h37m	25
33	浜松市立青少年の家	静岡県浜松市	1h36m	42
34	大府市野外教育センター	愛知県新城市	1h23m	88
35	新城市やまびこの丘	愛知県新城市	1h26m	54
36	豊川市野外センター「きららの里」	愛知県北設楽郡	1h27m	24
37	奥三河青年の家	愛知県北設楽郡	1h20m	96

第4章 他都市調査

1. 概要

政令指定都市及び愛知県内の中核市(豊橋市・岡崎市・一宮市・豊田市)の野外教育の現状(活動内容、宿泊日数、参加費など)や所管する野外教育施設(規模、機能、受入体制など)を調査し、名古屋市の野外教育活動と比較した。

2. 方法

調査対象の合計 23 の自治体に対して、名古屋市が作成した調査項目についてのアンケートを電子メールにて送信して、メールにて回答を得た。

3. 対象

以下の自治体を調査対象とした。

政令指定都市(19市)	札幌市・仙台市・さいたま市・千葉市・横浜市・川崎市・相模原市・新潟市・静岡市・浜松市・京都市・大阪市・堺市・神戸市・岡山市・広島市・北九州市・福岡市・熊本市
愛知県内の中核都市(4市)	豊橋市・岡崎市・一宮市・豊田市

4. 時期

以下の時期に調査を行った。

回答の依頼:2025年7月9日~10日

回答期限:令和 7 年7月31日(木)

5. 調査項目

問 1 宿泊行事の実施について (野外活動等含み、修学旅行は含まない)		
(1)	実施の有無	
(2)	実施の場合、その実施方法	
(3)	未実施の場合、その理由	
(4)	今後の実施予定	
問 2 実施状況について (令和 7 年度)		
(1)	実施校数	
(2)	対象学年	
(3)	参加人数 (令和 6 年度実績)	
(4)	活動時期 (×月～■月)	
(5)	活動日数 (●泊▲日)	
(6)	長期休業中における実施の有無	
問 3 活動場所について		
(1)	活動場所の数 (施設)	
(2)	施設名	
(3)	所有者	
(4)	所在地	
(5)	開設時期	
(6)	収容人員	
(7)	利用者	
(8)	一般利用者の有無	
(9)	施設内の建物改築の有無	
(10)	改築ありの場合、改築時期	
(11)	学校からの平均移動時間	
(12)	学校からの平均移動距離	
(13)	その場所で実施している理由	
(14)	参考	(施設に関する URL 等)
(15)	運営形態	
(16)	予算上の職員数 (R7 年度)	会計年度任用職員は、任期が 1 年間である者の人数。
(17)	職員の欠員状況 (R7.4 月)	欠員その他の課題に対する対応状況※今後の予定でも可
問 4 参加費について (令和 7 年度)		
(1)	1 人あたりの参加費	
(2)	参加費の内訳	
問 5 活動内容について		
(1)	実施できる活動内容	
(2)	活動内容の決定方法	
問 6 今後の野外活動について、現在検討している課題はありますか。(自由記載)		

6. 結果

添付資料 1 のとおり。

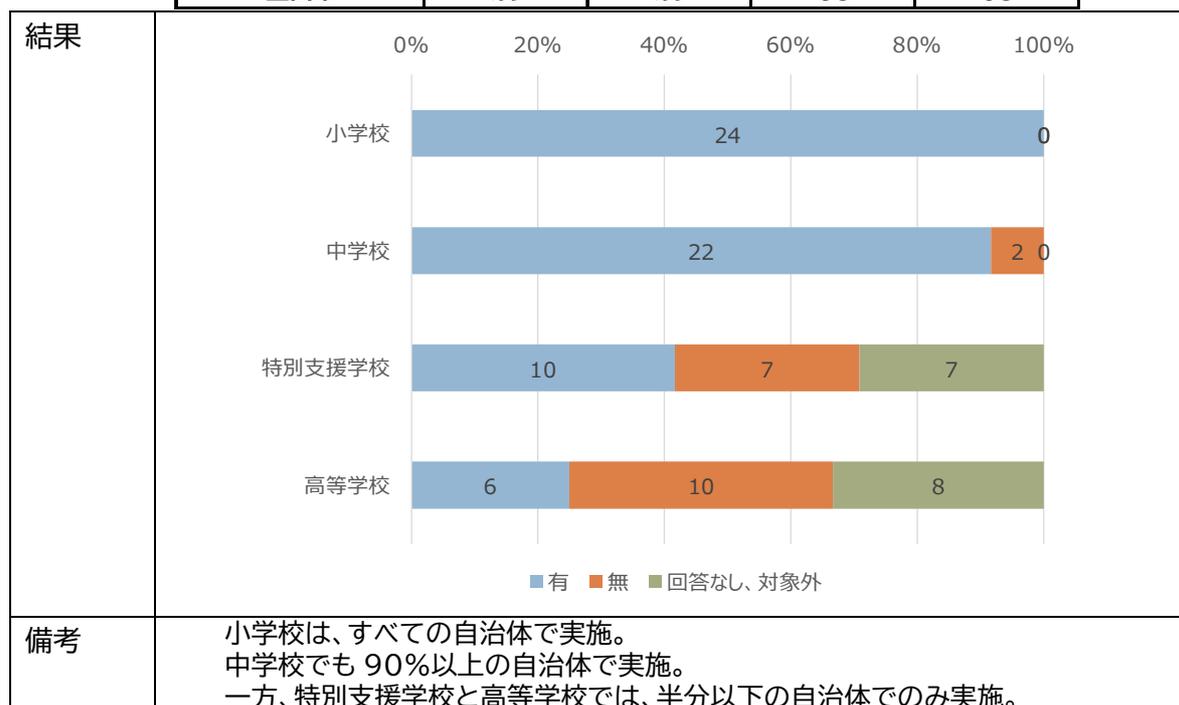
7. 結果の分析

主要な調査項目に関する結果を以下の(1)～(6)のと通りの表にまとめた。

そのうえで、表より読み取れる傾向を、備考欄に記載している。

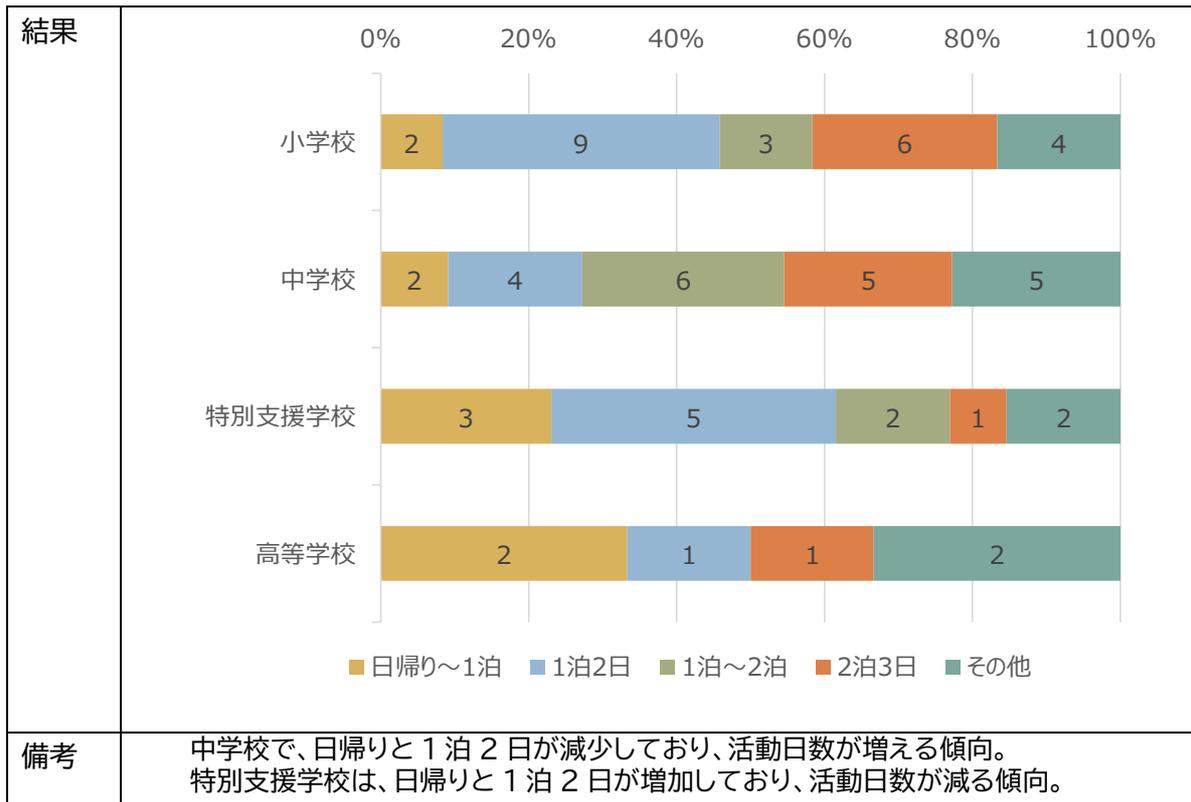
(1) 実施の有無

	小学校	中学校	特別支援学校	高等学校
名古屋市	あり	あり	あり	あり
札幌市	あり	あり	なし	なし
仙台市	あり	あり	あり	なし
さいたま市	あり	あり	なし	なし
千葉市	あり	あり	あり	あり
横浜市	あり	あり	あり	あり
川崎市	あり	あり	あり	なし
相模原市	あり	あり	あり	あり
新潟市	あり	あり	あり	なし
静岡市	あり	なし	なし	なし
浜松市	あり	あり	なし	なし
京都市	あり	あり	なし	なし
大阪市	あり	あり	大阪府へ移管	大阪府へ移管
堺市	あり	あり	あり	あり
神戸市	あり	あり	あり	なし
岡山市	あり	あり	なし	なし
広島市	あり	あり	なし	あり
北九州市	あり	あり	あり	なし
福岡市	あり	あり	あり	あり
熊本市	あり	あり	なし	なし
豊橋市	あり	あり	なし	なし
岡崎市	あり	なし	なし	なし
一宮市	あり	あり	なし	なし
豊田市	あり	あり	なし	なし



(2) 活動日数

	小学校	中学校	特別支援学校	高等学校
名古屋市	2泊3日	2泊3日	1泊2日	日帰り、 1泊2日 (各校による)
札幌市	1泊2日	1泊2日	活動なし	活動なし
仙台市	1泊2日 または 2泊3日	1泊2日 または 2泊3日	1泊2日	活動なし
さいたま市	2泊3日	2泊3日	活動なし	活動なし
千葉市	2泊3日	2泊3日	小学部1泊2日 or 2泊3日 (希望制)、 中学部1泊2日	2泊3日
横浜市	各校による	各校による	各校による	各校による
川崎市	2泊3日	2泊3日	小学部1泊2日、 中学部2泊3日	活動なし
相模原市	1泊2日	1泊2日 (2泊は1校)	1泊2日	1泊2日
新潟市	各校による	各校による	各校による	活動なし
静岡市	1泊2日	活動なし	活動なし	記載なし
浜松市	1泊2日	1泊2日	活動なし	活動なし
京都市	主に2泊3日 0泊1日	0泊1日	活動なし	活動なし
大阪市	1泊2日・ 2泊3日	1泊2日	大阪府へ移管	大阪府へ移管
堺市	日帰り～1泊	日帰り～1泊	日帰り～1泊	日帰り～1泊
神戸市	2泊3日+ 2日間の日帰り 体験活動	1泊2日 または 2泊3日	1泊2日 (一部日帰りあり)	活動なし
岡山市	1泊2日	日帰り、 1泊2日	活動なし	活動なし
広島市	2泊3日以内	3泊4日以内	活動なし	3泊4日以内
北九州市	日帰り、 1泊2日	1泊2日、 2泊3日、 日帰り	日帰り、 1泊2日	活動なし
福岡市	1泊または 2泊	1泊または 2泊	1泊2日	活動なし
熊本市	2泊3日	1泊2日 または 2泊3日	活動なし	活動なし
豊橋市	1泊2日	1泊2日、 2泊3日		
岡崎市	1泊2日	活動なし	活動なし	活動なし
一宮市	1泊2日	1泊2日		
豊田市	1泊2日	2泊3日		活動なし



(3) 利用している施設の運営形態

	小学校	中学校	特別支援学校	高等学校
名古屋市	中津川野外教育センター (市保有施設) 直営(市の職員で運営)	稲武野外教育センター (市保有施設) 直営(市の職員で運営)	中津川野外教育センター (市保有施設) 直営(市の職員で運営)	野外学習センター (市保有施設) 業務委託で運営
札幌市	札幌市青少年山の家 (札幌市) 指定管理 定山溪自然の村 (札幌市) 指定管理 道民の森神居尻地区 (北海道) 指定管理	ネイバル深川 (北海道) 指定管理	活動なし	活動なし
仙台市	オーエンス泉岳自然ふれあい館 (仙台市) 指定管理	各校による	オーエンス泉岳自然ふれあい館 (仙台市) 指定管理	活動なし
さいたま市	館岩少年自然の家 (さいたま市) 直営	館岩少年自然の家 (さいたま市) 直営	活動なし	活動なし
千葉市	千葉市少年自然の家 (千葉YMCA・伊藤忠UCグループ) 指定管理	国立赤城青少年交流の家 (国立) 国立施設 国立那須甲子青少年自然の家 (国立) 国立施設	千葉市少年自然の家 (千葉YMCA・伊藤忠UCグループ) 指定管理	大島温泉ホテル 民間
横浜市	各校による	各校による	各校による	各校による
川崎市	川崎市八ヶ岳少年自然の家 (川崎市) 指定管理	川崎市八ヶ岳少年自然の家 (川崎市) 指定管理	横浜あゆみ荘 不明	活動なし
相模原市	相模川自然の村野外体験教室 (相模原市) 直営指定管理 (野外体験活動は市指導主事が実施) ふるさと自然体験教室 (相模原市) 指定管理指定管理 (野外体験活動は市指導主事が実施)	相模川自然の村野外体験教室 (相模原市) 直営指定管理 (野外体験活動は市指導主事が実施) ふるさと自然体験教室 (相模原市) 指定管理指定管理 (野外体験活動は市指導主事が実施)	相模川自然の村野外体験教室 (相模原市) 直営指定管理 (野外体験活動は市指導主事が実施) ふるさと自然体験教室 (相模原市) 指定管理指定管理 (野外体験活動は市指導主事が実施)	相模川自然の村野外体験教室 (相模原市) 直営指定管理 (野外体験活動は市指導主事が実施) ふるさと自然体験教室 (相模原市) 指定管理指定管理 (野外体験活動は市指導主事が実施)
新潟市	各校による	各校による	各校による	活動なし
静岡市	井川少年自然の家 (静岡市) 直営 静岡県立焼津青少年の家 (焼津市) 県営 静岡県立焼津青少年の家 (焼津市) 県営	活動なし	活動なし	活動なし
浜松市	三ヶ日青年の家 (静岡県教育委員会) 指定管理 静岡県立観音山少年自然の家 (静岡県教育委員会) 直営 国立中央青少年交流の家 (独立行政法人 国立青少年教育振興機構) 不明 かわな野外活動センター (公財) 浜松市スポーツ協会) 指定管理	三ヶ日青年の家 (静岡県教育委員会) 指定管理 静岡県立観音山少年自然の家 (静岡県教育委員会) 直営 国立中央青少年交流の家 (独立行政法人 国立青少年教育振興機構) 不明 かわな野外活動センター (公財) 浜松市スポーツ協会) 指定管理	活動なし	活動なし

	小学校	中学校	特別支援学校	高等学校
京都市	京都市 野外活動施設花背山の家 (京都市) 直営	京都市 野外活動施設花背山の家 (京都市) 直営	活動なし	活動なし
大阪市	大阪府立少年自然の家 (-) 不明 大阪府立青少年海洋センター (-) 不明 大阪市立信太山 青少年野外活動センター (-) 不明	大阪府立少年自然の家 (-) 不明 大阪府立青少年海洋センター (-) 不明 大阪市立信太山青少年野外活 動センター (-) 不明	大阪府へ移管	大阪府に移管
堺市	大阪府立青少年海洋センター (-) 不明 びわ湖青少年の家 (-) 不明 羽衣青少年センター (-) 不明 大阪府立少年自然の家 (-) 不明	大阪府立少年自然の家 (-) 不明 羽衣青少年センター (-) 不明 大阪市立信太山 青少年野外活動センター (-) 不明 関西サイクルスポーツセンター 不明 奥水間アスレチックスポーツ 不明 六甲山アスレチックパーク 不明	記載なし	記載なし
神戸市	兵庫県養父市 民間宿泊施設 (多数あるため記載せず) 民間 神戸市立 自然の家 「そうぞうのすみか」 (神戸市) 指定管理	兵庫県養父市 民間宿泊施設 (多数あるため記載せず) 民間 神戸市立 自然の家 「そうぞうのすみか」 (神戸市) 指定管理	兵庫県養父市 民間宿泊施設 (多数あるため記載せず) 民間 神戸市立 自然の家 「そうぞうのすみか」 (神戸市) 指定管理	活動なし
岡山市	岡山市立少年自然の家 (岡山市) 指定管理 岡山県渋川青年の家 (岡山県) 指定管理	岡山県青少年教育センター 関谷学校 (岡山県) 把握していない	活動なし	活動なし
広島市	広島市青少年野外活動センター (公益財団法人 広島市文化財団) 広島市からの補助金を受けて 公益財団法人 広島市文化財団が運営 広島市三滝少年自然の家 (広島市) 指定管理 広島市似島歓迎交流センター (広島市) 指定管理 国立江田島青少年交流の家 (独立行政法人国立青少年教 育振興機構) 不明 国立三瓶青少年交流の家 (独立行政法人 国立青少年教育振興機構) 不明	広島市青少年野外活動センター (公益財団法人広島市文化財 団) 広島市からの補助金を受けて 公益財団法人 広島市文化財団が運営 広島市三滝少年自然の家 (広島市) 指定管理 広島市似島歓迎交流センター (広島市) 指定管理 国立江田島青少年交流の家 (独立行政法人国立青少年教 育振興機構) 不明 国立三瓶青少年交流の家 (独 立行政法人国立青少年教育振 興機構) 不明	活動なし	広島市青少年野外活動センター (公益財団法人広島市文化財 団) 広島市からの補助金を受けて 公益財団法人 広島市文化財団が運営 広島市三滝少年自然の家 (広島市) 指定管理 広島市似島歓迎交流センター (広島市) 指定管理 国立江田島青少年交流の家 (独立行政法人国立青少年教 育振興機構) 不明 国立三瓶青少年交流の家 (独 立行政法人国立青少年教育振 興機構) 不明

	小学校	中学校	特別支援学校	高等学校
広島市	国立山口徳地青少年交流の家 (独立行政法人 国立青少年教育振興機構) 不明	国立山口徳地青少年交流の家 (独立行政法人国立青少年教育振興機構) 不明	活動なし	国立山口徳地青少年交流の家 (独立行政法人国立青少年教育振興機構) 不明
北九州市	北九州市立 玄海青年の家 (北九州市) 玄海グリーン&アドベンチャー 共同企業体 北九州市立 かぐめよし少年自然の家 (北九州市) 玄海グリーン&アドベンチャー 共同企業体 北九州市立 もじ少年自然の家 (北九州市) 玄海グリーン&アドベンチャー 共同企業体	各校による	北九州市立 玄海青年の家 (北九州市) 玄海グリーン&アドベンチャー 共同企業体 北九州市立 もじ少年自然の家 (北九州市) 玄海グリーン&アドベンチャー 共同企業体	活動なし
福岡市	各校による	各校による	海の中道青少年海の家 (福岡市) 委託 休暇村 志賀島 (休暇村) 経営	記載なし
熊本市	熊本市立金峰山自然の家 (熊本市) 指定管理	熊本県立あしきた青少年の家 (熊本県) 不明 熊本県立天草青年の家 (熊本県) 不明 熊本県立菊池少年自然の家 (熊本県) 不明	活動なし	活動なし
豊橋市	豊橋市野外教育センター (豊橋市) 直営 豊橋市少年自然の家 (豊橋市) 直営	豊橋市野外教育センター (豊橋市) 直営 豊橋市少年自然の家 (豊橋市) 直営		
岡崎市	岡崎市少年自然の家 (岡崎市) 直営	活動なし	活動なし	活動なし
一宮市	ひるがの高原キャンプ場 民間 愛知県美浜自然の家 (所有者 空欄) 認定特定非営利活動法人 愛知ネットが管理運営	ひるがの高原キャンプ場 民間 愛知県美浜自然の家 (所有者 空欄) 認定特定非営利活動法人 愛知ネットが管理運営		
豊田市	豊田市総合野外センター (豊田市) (公財)豊田市文化振興財団 が運営 愛知県旭高原自然の家 (愛知県) 指定管理者制度	豊田市総合野外センター (豊田市) (公財)豊田市文化振興財団 が運営 国立妙高青少年自然の家 (独立行政法人 国立青少年教育振興機構) 直営 国立乗鞍青少年交流の家 (独立行政法人 国立青少年教育振興機構) 直営		活動なし

<p>結果</p>	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校種別</th> <th>直営</th> <th>指定管理</th> <th>県営</th> <th>財団</th> <th>民間</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>9</td> <td>19</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>特別支援学校</td> <td>2</td> <td>7</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>高等学校</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>■ 直営 ■ 指定管理 ■ 県営 ■ 財団 ■ 民間 ■ その他</p>	学校種別	直営	指定管理	県営	財団	民間	その他	小学校	9	19	2	2	2	1	中学校	9	9	2	2	3	0	特別支援学校	2	7	1	1	0	0	高等学校	1	4	1	0	0	0
学校種別	直営	指定管理	県営	財団	民間	その他																														
小学校	9	19	2	2	2	1																														
中学校	9	9	2	2	3	0																														
特別支援学校	2	7	1	1	0	0																														
高等学校	1	4	1	0	0	0																														
<p>備考</p>	<p>指定管理の割合が最も多い。次に直営の割合が多い。 民間による運営も存在するが、限られる。</p>																																			

(4) 現在の課題(自由回答)**【多かった意見】**● **暑さ対策**

小学校	12市	名古屋市、さいたま市、横浜市、浜松市、京都市、大阪市、北九州市、福岡市、豊橋市、岡崎市、一宮市、豊田市
中学校	10市	名古屋市、横浜市、浜松市、京都市、大阪市、北九州市、福岡市、豊橋市、一宮市、豊田市
特別支援学校	4市	名古屋市、千葉市、横浜市、北九州市
高等学校	1市	横浜市

● **参加費の高騰**

小学校	16市	名古屋市、札幌市、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市、京都市、大阪市、神戸市、広島市、北九州市、豊橋市、岡崎市、一宮市、豊田市
中学校	13市	名古屋市、札幌市、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市、大阪市、広島市、北九州市、豊橋市、一宮市、豊田市
特別支援学校	7市	名古屋市、横浜市、川崎市、相模原市、神戸市、北九州市、福岡市
高等学校	2市	横浜市、相模原市

● **施設の老朽化**

小学校	6市	名古屋市、さいたま市、川崎市、京都市、豊橋市、岡崎市
中学校	3市	名古屋市、さいたま市、川崎市
特別支援学校	1市	名古屋市
高等学校	0市	

● **職員の高齢化**

小学校(名古屋市、豊橋市、岡崎市)・・・3市

中学校(名古屋市)・・・1市

特別支援学校(名古屋市)・・・1市

高等学校(なし)・・・0市

● **大規模校の対応**

小学校(さいたま市、北九州市)・・・2市

中学校(さいたま市、北九州市)・・・2市

特別支援学校(北九州市)・・・1市

高等学校(なし)・・・0市

【その他の意見】

● バスの確保・・・小学校(千葉市)1市

● 下見にかかる費用・・・小学校(静岡市)1市

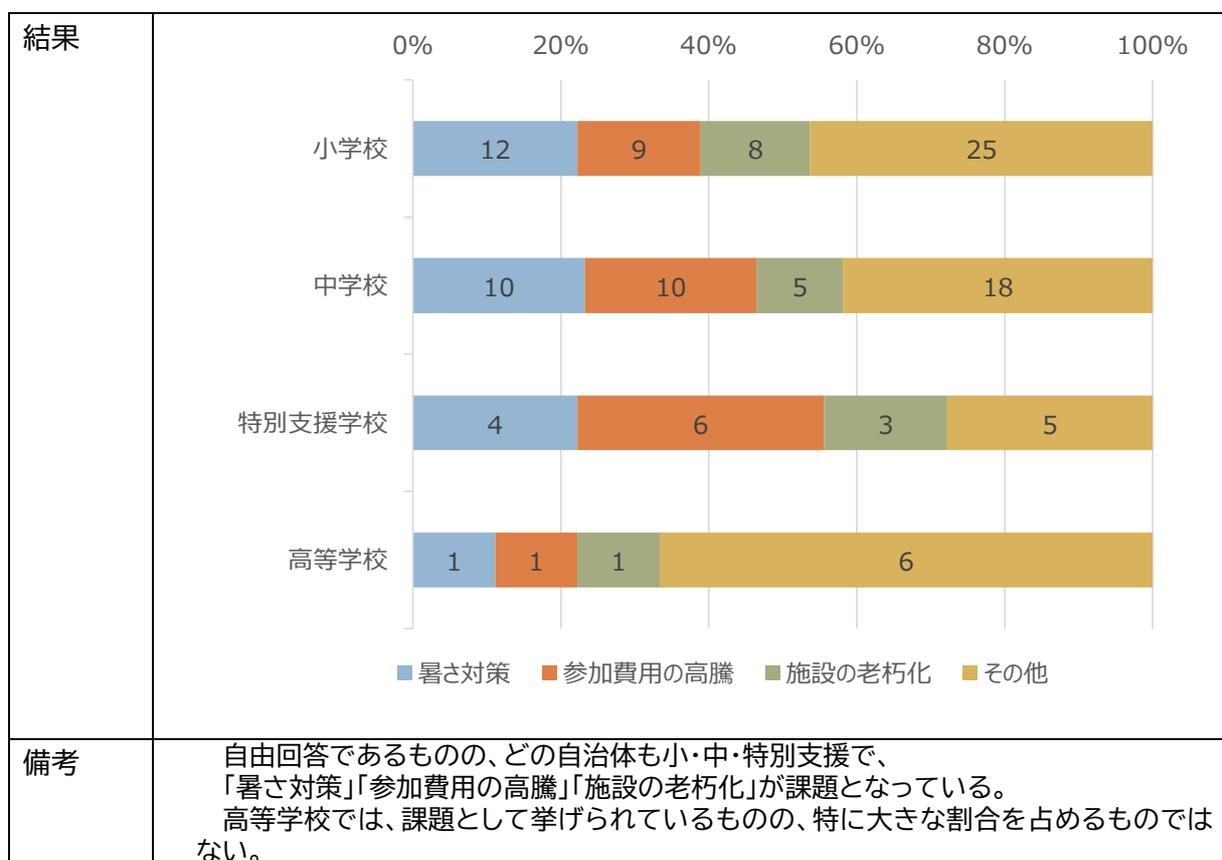
- 保護者への周知・・・小学校(浜松市)1市
- 害虫・害獣対策・・・小学校(京都市)1市
- 活動内容の充実・・・小学校(広島市)1市
- 施設と学校の認識のずれの調整・・・小学校(熊本市)1市
- 長寿命化の改修工事・・・小学校・中学校・特別支援学校・高等学校(相模原市)1市
- 特になし

小学校(仙台市、堺市)・・・2市

中学校(仙台市、堺市、熊本市)・・・3市

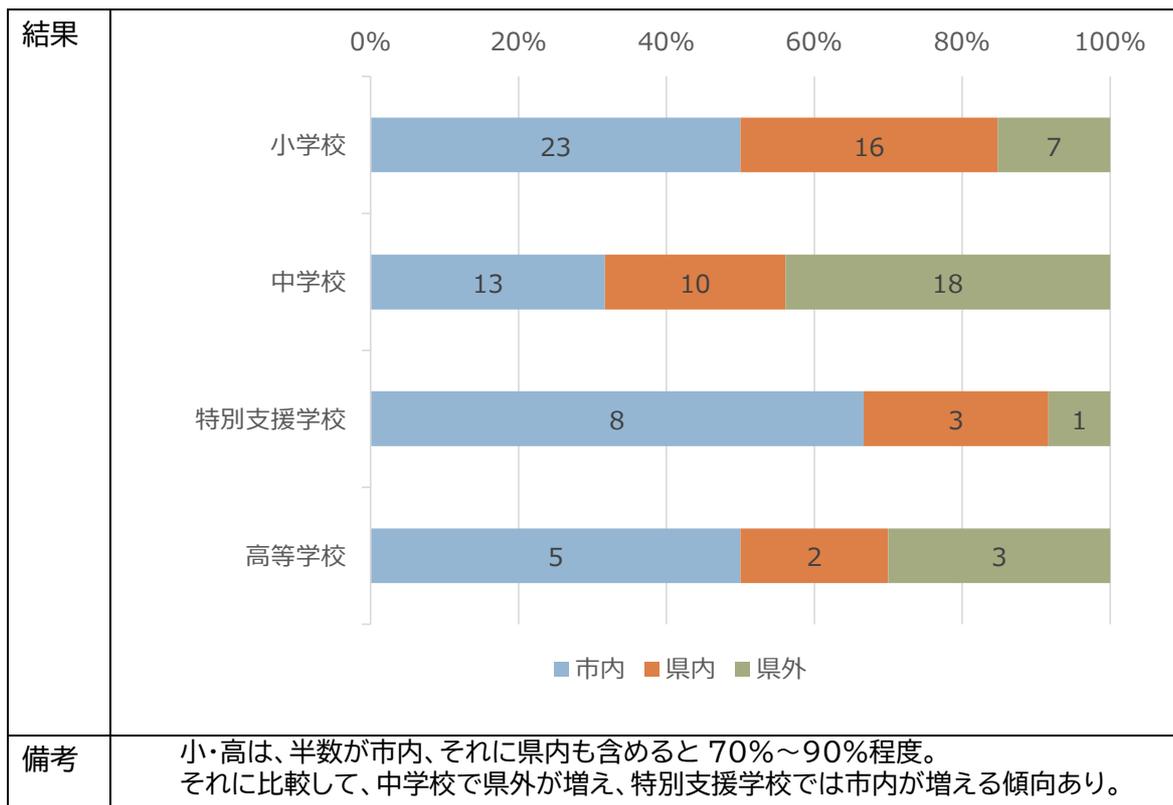
特別支援学校(仙台市、堺市)・・・2市

高等学校(名古屋市、仙台市、千葉市、堺市、広島市)・・・4市



(5) 施設の場所

	小学校	中学校	特別支援学校	高等学校
名古屋市	県外	県内	県外	県内
札幌市	道内	道内	活動なし	活動なし
仙台市	県内	県内、県外 どちらもある	県内	活動なし
さいたま市	県内	県内	活動なし	活動なし
千葉市	県内	県外	県内	県内
横浜市	不明	不明	不明	不明
川崎市	県外	県内	県内	活動なし
相模原市	県内	県内	県内	県内
新潟市	不明	不明	活動なし	活動なし
静岡市	県内	活動なし	活動なし	記載なし
浜松市	県内	県内	活動なし	活動なし
京都市	府内	府内	活動なし	活動なし
大阪市	府内	府内	大阪府へ移管	大阪府へ移管
堺市	県内、県外 どちらもある	県内、県外 どちらもある	記載なし	記載なし
神戸市	県内	県内	県内	活動なし
岡山市	県内	県内	活動なし	活動なし
広島市	県内、県外 どちらもある	県内、県外 どちらもある	活動なし	県内、県外 どちらもある
北九州市	県内	不明	県内	活動なし
福岡市	県内、県外 どちらもある	県内、県外 どちらもある	県内	記載なし
熊本市	県内	県内	活動なし	活動なし
豊橋市	県内	県内	担当無し、 回答除外	担当無し、 回答除外
岡崎市	県内	活動なし	活動なし	活動なし
一宮市	県内、県外 どちらもある	県内、県外 どちらもある	担当無し、 回答除外	担当無し、 回答除外
豊田市	県内	県内、県外 どちらもある	担当無し、 回答除外	活動なし



(6) 施設の一般利用の有無

	小学校	中学校	特別支援学校	高等学校
名古屋市	中津川野外教育センター (市保有施設) なし	稲武野外教育センター (市保有施設) なし	中津川野外教育センター (市保有施設) なし	野外学習センター (市保有施設) あり
札幌市	札幌市青少年山の家 (札幌市) あり	ネイバル深川 (北海道) あり	活動なし	活動なし
	定山溪自然の村 (札幌市) あり 道民の森神居尻地区 (北海道) あり			
仙台市	オーエンス泉岳自然ふれあい館 (仙台市) あり	各校による	オーエンス泉岳自然ふれあい館 (仙台市) あり	活動なし
さいたま市	館岩少年自然の家 (さいたま市) あり	館岩少年自然の家 (さいたま市) あり	活動なし	活動なし
千葉市	千葉市少年自然の家 (千葉YMCA・伊藤忠UCグループ) あり	国立赤城青少年交流の家 (国立) あり 国立那須甲子青少年自然の家 (国立) あり	千葉市少年自然の家 (千葉YMCA・伊藤忠UCグループ) あり	大島温泉ホテル あり(民間)
横浜市	各校による	各校による	各校による	各校による
川崎市	川崎市八ヶ岳少年自然の家 (川崎市) あり	川崎市八ヶ岳少年自然の家 (川崎市) あり	横浜あゆみ荘 あり	活動なし
相模原市	相模川自然の村野外体験教室 (相模原市) なし	相模川自然の村野外体験教室 (相模原市) なし	相模川自然の村野外体験教室 (相模原市) なし	相模川自然の村野外体験教室 (相模原市) なし
	ふるさと自然体験教室 (相模原市) なし	ふるさと自然体験教室 (相模原市) なし	ふるさと自然体験教室 (相模原市) なし	ふるさと自然体験教室 (相模原市) なし
新潟市	各校による	各校による	活動なし	活動なし
静岡市	井川少年自然の家 (静岡市) あり 静岡県立焼津青少年の家 (焼津市) あり 静岡県立焼津青少年の家 (焼津市) あり	活動なし	活動なし	活動なし
浜松市	三ヶ日青年の家 (静岡県教育委員会) あり 静岡県立観音山少年自然の家 (静岡県教育委員会) あり 国立中央青少年交流の家 (独立行政法人 国立青少年教育振興機構) あり かな野外活動センター (公財) 浜松市スポーツ協会) あり	三ヶ日青年の家 (静岡県教育委員会) あり 静岡県立観音山少年自然の家 (静岡県教育委員会) あり 国立中央青少年交流の家 (独立行政法人 国立青少年教育振興機構) あり かな野外活動センター (公財) 浜松市スポーツ協会) あり	活動なし	活動なし
京都市	京都市 野外活動施設花背山の家 (京都市) あり	京都市 野外活動施設花背山の家 (京都市) あり	活動なし	活動なし

	小学校	中学校	特別支援学校	高等学校
大阪市	大阪府立少年自然の家 (-) 不明 大阪府立青少年海洋センター (-) 不明 大阪市立信太山 青少年野外活動センター (-) 不明	大阪府立少年自然の家 (-) 不明 大阪府立青少年海洋センター (-) 不明 大阪市立信太山青少年野外活 動センター (-) 不明	大阪府へ移管	大阪府に移管
堺市	大阪府立青少年海洋センター (-) 不明 びわ湖青少年の家 (-) 不明 羽衣青少年センター (-) 不明 大阪府立少年自然の家 (-) 不明	大阪府立少年自然の家 (-) 不明 羽衣青少年センター (-) 不明 大阪市立信太山 青少年野外活動センター (-) 不明 関西サイクルスポーツセンター 不明 奥水間アスレチックスポーツ 不明 六甲山アスレチックパーク 不明	記載なし	記載なし
神戸市	兵庫県養父市 民間宿泊施設 (多数あるため記載せず) 民間 神戸市立 自然の家 「そうぞうのすみか」 (神戸市) 指定管理	兵庫県養父市 民間宿泊施設 (多数あるため記載せず) 民間 神戸市立 自然の家 「そうぞうのすみか」 (神戸市) 指定管理	兵庫県養父市 民間宿泊施設 (多数あるため記載せず) 民間 神戸市立 自然の家 「そうぞうのすみか」 (神戸市) 指定管理	活動なし
岡山市	岡山市立少年自然の家 (岡山市) 指定管理 岡山県洪川青年の家 (岡山県) 指定管理	岡山県青少年教育センター 関谷学校 (岡山県) 把握していない	活動なし	活動なし
広島市	広島市青少年野外活動センター (公益財団法人 広島市文化財団) 広島市からの補助金を受けて 公益財団法人 広島市文化財団が運営 広島市三滝少年自然の家 (広 島市) 指定管理 広島市似島歓迎交流センター (広島市) 指定管理 国立江田島青少年交流の家 (独立行政法人国立青少年教 育振興機構) 不明 国立三瓶青少年交流の家 (独立行政法人 国立青少年教育振興機構) 不明	広島市青少年野外活動センター (公益財団法人広島市文化財 団) 広島市からの補助金を受けて 公益財団法人 広島市文化財団が運営 広島市三滝少年自然の家 (広 島市) 指定管理 広島市似島歓迎交流センター (広島市) 指定管理 国立江田島青少年交流の家 (独立行政法人国立青少年教 育振興機構) 不明 国立三瓶青少年交流の家 (独 立行政法人国立青少年教育振 興機構) 不明	活動なし	広島市青少年野外活動センター (公益財団法人広島市文化財 団) 広島市からの補助金を受けて 公益財団法人 広島市文化財団が運営 広島市三滝少年自然の家 (広 島市) 指定管理 広島市似島歓迎交流センター (広島市) 指定管理 国立江田島青少年交流の家 (独立行政法人国立青少年教 育振興機構) 不明 国立三瓶青少年交流の家 (独 立行政法人国立青少年教育振 興機構) 不明

	小学校	中学校	特別支援学校	高等学校
北九州市	北九州市立 玄海青年の家 (北九州市) あり 北九州市立 かぐめよし少年自然の家 (北九州市) あり 北九州市立 もじ少年自然の家 (北九州市) あり	不明	北九州市立 玄海青年の家 (北九州市) あり 北九州市立 もじ少年自然の家 (北九州市) あり	活動なし
福岡市	各校による	各校による	海の中道青少年海の家 (福岡市) あり 休暇村 志賀島 (休暇村) あり	記載なし
熊本市	熊本市立金峰山自然の家 (熊本市) あり	熊本県立あしきた青少年の家 (熊本県) 不明 熊本県立天草青年の家 (熊本県) 不明 熊本県立菊池少年自然の家 (熊本県) 不明	活動なし	活動なし
豊橋市	豊橋市野外教育センター (豊橋市) あり 豊橋市少年自然の家 (豊橋市) あり	豊橋市野外教育センター (豊橋市) あり 豊橋市少年自然の家 (豊橋市) あり	担当なし	担当なし
岡崎市	岡崎市少年自然の家 (岡崎市) なし	活動なし	活動なし	活動なし
一宮市	ひるがの高原キャンプ場 (所有者 空欄) あり(民間) 愛知県美浜自然の家 (所有者 空欄) あり	ひるがの高原キャンプ場 あり(民間) 愛知県美浜自然の家 (所有者 空欄) あり	担当なし	担当なし
豊田市	豊田市総合野外センター (豊田市) あり 愛知県旭高原自然の家 (愛知県) あり	豊田市総合野外センター (豊田市) あり 国立妙高青少年自然の家 (独立行政法人 国立青少年教育振興機構) あり 国立乗鞍青少年交流の家 (独立行政法人 国立青少年教育振興機構) あり	担当なし	担当なし

結果	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <table border="1"><thead><tr><th>学校種別</th><th>あり (%)</th><th>なし (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>小学校</td><td>34</td><td>4</td></tr><tr><td>中学校</td><td>25</td><td>3</td></tr><tr><td>特別支援学校</td><td>7</td><td>3</td></tr><tr><td>高等学校</td><td>8</td><td>2</td></tr></tbody></table> <p>■あり ■なし</p>	学校種別	あり (%)	なし (%)	小学校	34	4	中学校	25	3	特別支援学校	7	3	高等学校	8	2
学校種別	あり (%)	なし (%)														
小学校	34	4														
中学校	25	3														
特別支援学校	7	3														
高等学校	8	2														
備考	小・中の90%以上で一般利用あり。 特別支援・高では多少、一般利用が減る傾向。															

添付資料一覧

1. 添付資料1 野外活動における活動場所について

- (1) 小学校
- (2) 中学校
- (3) 特別支援学校
- (4) 高等学校

2. 添付資料 2 現行施設一覧